Macaronics.com

ベアテ・シロタ・ゴードンさんについて

べあて・しろた・ご一どんさんについて

With Regards to Ms. Beate Sirota Gordon



Source — http://documentary-campaign.blogspot.com/2012/12/blog-post_31.html
Translations by miyu, denis, lalala, Silverously

ベアテ・シロタ・ゴードンさんが亡くなった。

べあて・しろた・ご一どんさんがなくなった。

Ms. Beate Sirota Gordon has passed away. — denis

僕が駆け出しのTVディレクターだった頃、アメリカのTVにConstitutionWriter という肩書きで出演されてたのを観てビックリした。

ぼくがかけだしのTVでぃれくた一だったころ、あめりかのTVにCONSTITUTIONWRITERというかたがきでしゅつえんされてたのをみてびっくりした。

When I was a fledgling tv director, I was surprised to see American television cast a "Constitution Writer" part. — miyu

日本国憲法の草案を書いた人がそこにいるってことが衝撃だった。

にほんこくけんぽうのそうあんをかいたひとがそこにいるってことがしょうげきだった。

I was shocked to find out that standing there before me was one of the people who drafted Japan's constitution. — <u>miyu</u>

すぐさま撮影を申し込み、『ニューヨーカーズ』というNHK衛星第1の番組で取り上げさせてもらった。

すぐさまさつえいをもうしこみ、「にゅーよーかーず」というNHKえいせいだい1のばんぐみでとりあげさせてもらった。

Soon after I asked to shoot my film, it was featured an NHK broadcast satellite (BS1) program called "New Yorkers". — denis

20分の軽めのミニ・ドキュメンタリー・シリーズに無理矢理押し込んだので、 編集段階でNHKと物凄く揉めた。

20ぷんのかるめのみに・どきゅめんたりー・しりーずにむりやりおしこんだので、へん しゅうだんかいでNHKとものすごくもめた。

My film was forced into a twenty minute light-hearted mini documentary series format, and when it came time to edit it, I had all kinds of terrible disputes with NHK. — denis

尺も短いし十分なことはできなかったけれど、僕にとっては入魂の一作である。 しゃくもみじかいしじゅうぶんなことはできなかったけれど、ぼくにとってはにゅうこん のいちさくである。

I couldn't do enough in such a short format, since I had put my heart and soul into this work. — denis

ベアテさんの父親はレオ・シロタという世界的なピアニスト。

べあてさんのちちおやはれお・しろたというせかいてきなぴあにすと。

Beate's father was Leo Sirota, a world-renowned pianist. — miyu

ベアテさんは子供のころ家族で日本に住んでいた。

べあてさんはこどものころかぞくでにっぽんにすんでいた。

Beate lived her childhood with her family in Japan. — <u>miyu</u>

だがアメリカに留学中に太平洋戦争が勃発。

だがあめりかにりゅうがくちゅうにたいへいようせんそうがぼっぱつ。

She was studying abroad in the United States when World War II started. — miyu

ベアテさんは、日本に残してきた音信不通の両親に会いたい一心で、敗戦後 GHQにスタッフとして志願した。

べあてさんは、にほんにのこしてきたおんしんふつうのりょうしんにあいたいいっしんで、はいせんごGHQにすたっふとしてしがんした。

Beate lost contact with her parents who had stayed in Japan, and since she was anxious to see them again, she applied for a staff job with GHQ after the Japanese were defeated. — mivu

それが唯一、日本に入る手段だった。

それがゆいいつ、にっぽんにはいるしゅだんだった。

That was the only way she could have entered Japan. — miyu

GHQの一員として来日したベアテさんは、やがて日本国憲法の草案を書くチームに配属された。

GHQのいちいんとしてらいにちしたべあてさんは、やがてにっぽんこくけんぽうのそう あんをかくちーむにはいぞくされた。

Soon after joining the GHQ staff in Japan, she was assigned to the team drafting the new Japanese constitution. — <u>miyu</u>

当時彼女は22歳。

とうじかのじょは22さい。

At the time, she was 22 years old. — miyu

唯一の女性。

ゆいいつのじょせい。

The only woman. — miyu

戦前の日本で女性が虐げられているのを目の当たりにしていたため、女性の権利 を憲法に盛り込もうと奮闘した。

せんぜんのにっぽんでじょせいがしいたげられているのをまのあたりにしていたため、 じょせいのけんりをけんぽうにもりこもうとふんとうした。

In Japan before the war, she had seen with her own eyes how women were oppressed, so she fought hard to have womens' rights incorporated into the

それは両性の本質的平等を定めた憲法第24条として結実した。 それはりょうせいのほんしつてきびょうどうをさだめたけんぽうだい24じょうとしてけ つじつした。

That was successfully realized in Article 24 of the Constitution, which set forth essentially equal rights for both sexes. — miyu

日本語が堪能なベアテさんは、GHQ草案を日本語に訳す作業や、日本政府との 折衝での通訳としても活躍した。

にっぽんごがたんのうなべあてさんは、GHQそうあんをにほんごにやくすさぎょうや、 にっぽんせいふとのせっしょうでのつうやくとしてもかつやくした。

Since Beate-san was fluent in Japanese, she translated GHQ draft documents into Japanese, and acted as an interpreter in the negotiations with the Japanese government. — <u>lalala</u>

草案は1つ1つ日本側と協議され、両性の本質的平等を定めた第24条については日本側から「日本文化に合わない」と激しい抵抗を受けたそうだ。

そうあんは1つ1つにっぽんがわときょうぎされ、りょうせいのほんしつてきびょうどうをさだめただい24じょうについてはにっぽんがわから「にっぽんぶんかにあわない」とはげしいていこうをうけたそうだ。

They reviewed each draft article one by one in consultation with the Japanese, but when they reached Article 24, which guaranteed both sexes essentially the same rights, the Japanese side resisted intensely, claiming that "It [Article 24] went against the grain of Japanese culture." — <u>lalala</u>

紛糾の末、最後はケーディス大佐が「この条文はベアテが書いた。

ふんきゅうのすえ、さいごはけーでぃすたいさが「このじょうぶんはべあてがかいた。

At the height of the commotion, Colonel Kades said, "This article was written by Beate. — <u>miyu</u>

条文 = article

紛糾 = commotion

彼女に免じて受け入れないか?

かのじょにめんじてうけいれないか?

」と日本側に提案した。

」とにっぽんがわにていあんした。

he proposed to the Japanese side. — miyu

ベアテさんと緊密な交流があった日本側は、結局はそのひと言が決め手になって 受け入れたそうだ。

べあてさんときんみつなこうりゅうがあったにっぽんがわは、けっきょくはそのひとこと がきめてになってうけいれたそうだ。

Apparently, it was Beate-san's close personal interaction with the Japanese side which was the decisive factor in getting that wording accepted. — $\underline{\text{miyu}}$

因みに両性の本質的平等という概念は、合衆国憲法にもない先進的なアイデアである。

ちなみにりょうせいのほんしつてきびょうどうというがいねんは、がっしゅうこくけんぽ うにもないせんしんてきなあいであである。

By the way, the concept of both sexes having equal rights is such an advanced idea that it is not even in the U.S. Constitution. — **denis**

「日本国憲法はアメリカに押し付けられた憲法だから改憲が必要だ」という声が 高まっているが、僕は押し付けられて良かったと思っている。

「にほんこくけんぽうはあめりかにおしつけられたけんぽうだからかいけんがひつようだ」というこえがたかまっているが、ぼくはおしつけられてよかったとおもっている。

There is a growing chorus of voices which says that "since the constitution was forced upon us by the Americans, we must have the ability to amend it," but I think it is a good thing that the constitution was forced on us. — $\underline{\text{denis}}$

少なくとも「婚姻における両性の本質的平等」は無理にでもネジ込んでもらって 良かった。

すくなくとも「こんいんにおけるりょうせいのほんしつてきびょうどう」はむりにでもね じこんでもらってよかった。

It was good that at least "both sexes have equality in marriage" was forced through. — $\underline{\text{miyu}}$

あれがなかったら、日本の女性は今よりも不利な立場に置かれただろう。

あれがなかったら、にっぽんのじょせいはいまよりもふりなたちばにおかれただろう。

If it weren't for that, Japanese women would perhaps still be in a disadvantaged position even today. — <u>denis</u>

そもそも、GHQが草案を書くことになったのも、最初に日本側が出して来た新憲法案が大日本帝国憲法とほぼ同じだったからである。

そもそも、GHQがそうあんをかくことになったのも、さいしょににっぽんがわがだして きたしんけんほうあんがだいにっぽんていこくけんぽうとほぼおなじだったからである。

Even as the occupation authority at GHQ started writing drafts, the Japanese delegation initially wanted the new constitution to be roughly the same as the prior constitution of the Empire of Japan. — <u>denis</u>

GHQが日本の草案をそのまま受け入れていたら、戦後の日本の民主主義はあり得なかった。

GHQがにっぽんのそうあんをそのままうけいれていたら、せんごのにほんのみんしゅ しゅぎはありえなかった。

If GHQ had accepted the Japanese drafts as-is, democracy in postwar Japan would have been impossible. — <u>denis</u>

無論、GHQに圧力を受けず、最初から日本政府が自主的に民主的な憲法を書けたのなら、それほど素晴らしいことはないだろう。

むろん、GHQにあつりょくをうけず、さいしょからにほんせいふがじしゅてきにみん しゅてきなけんぽうをかけたのなら、それほどすばらしいことはないだろう。

Of course, if the Japanese government had voluntarily been able to write a Democratic constitution from the start without the pressure from GHQ, it probably would not have been all that great. — **Silverously**

だが、押し付けられた日本国憲法と、自主的に書いた「大日本帝国憲法モドキ」のどちらが望ましいかといえば、圧倒的に前者であろう。

だが、おしつけられたにっぽんこくけんぽうと、じしゅてきにかいた「だいにっぽんてい こくけんぽうもどき」のどちらがのぞましいかといえば、あっとうてきにぜんしゃであろ う。

However, out of the forced Constitution of Japan and the voluntarily written "The Pseudo-Constitution of the Great Empire of Japan," the former was likely overwhelming desired. — <u>Silverously</u>

ベアテさんのご冥福をお祈りするとともに、「日本国憲法に盛り込まれた平和条項と、女性の権利を守ってほしい」という遺言を、重く受け止めている。

べあてさんのごめいふくをおいのりするとともに、「にほんこくけんぽうにもりこまれた へいわじょうこうと、じょせいのけんりをまもってほしい」というゆいごんを、おもくう けとめている。

Beate-san, may your soul rest in peace; since "I want the articles for peace and women's rights in the Japanese Constitution to remain intact" was your last wish, I am taking it very seriously. — <u>miyu</u>

1999年、『ニューヨーカーズ』撮影時に映したスナップ。 せんきゅうひゃくきゅうじゅうきゅうねん、「にゅーよーかーず」さつえいじにうつした すなっぷ。

In 1999, a snapshot taken while shooting "New Yorkers". — denis

左から、あの伝説的舞踏家の大野一雄さん、ベアテ・シロタ・ゴードンさん、そして僕。

ひだりから、あのでんせつてきぶとうかのおおのかずおさん、べあて・しろた・ごーどん さん、そしてぼく。

From the left, the legendary dancer Kazuo Ohno, Beate Sirota Gordon, and me.

— <u>miyu</u>

まだ29歳か30歳。

まだ29さいか30さい。

I was just 29, maybe 30 years old. — miyu

大野さんをNYのダンス界に最初に紹介したのは、ベアテさんだった。 おおのさんをNYのだんすかいにさいしょにしょうかいしたのは、べあてさんだった。 Ohno was first introduced to the NY dance world by Beate. — <u>denis</u>

撮影期間中にちょうど大野さんがNYに公演でこられていて、他界したベアテさんのお母さんのために踊ってくださった。

さつえいきかんちゅうにちょうどおおのさんがNYにこうえんでこられていて、たかいしたべあてさんのおかあさんのためにおどってくださった。

Ohno happened to be performing in New York right in the middle of our filming, and she dedicated a dance in memory of Beate's mother, who had passed away.

- denis

今考えると奇跡的な番組だ。

いまかんがえるときせきてきなばんぐみだ。

Thinking about it now, it was a miraculous program. — $\underline{\mathbf{miyu}}$